

令和 7 年度(2025 年度) 第 2 回南区まちづくり懇話会 会議録(要旨)

- 1 日時 令和 7 年(2025 年) 10 月 2 日(木) 午前 10 時~午前 11 時 50 分
- 2 場所 南区役所 3 階大会議室
- 3 出席者 計 31 名(出席者名簿のとおり)
- 南区まちづくり懇話会委員 12 名
- 安部委員(会長)、高橋委員(副会長)、後藤委員、西村委員、中島(和)委員、
松枝委員、友清委員、中島(久)委員、福田委員、中迫委員、中林委員、
楠村委員
- 事務局 19 名
- 南区長、区民部長、保健福祉部長、南区土木センター所長、
南区管内まちづくりセンター所長(5 名)、福祉課長、保護課長、区民課長、
保健こども課長、総務企画課長、福祉課職員(1 名)、南部まちセン(1 名)
総務企画課職員(3 名)

4 内容

- (1) 開会
- (2) 区長挨拶
- (3) 議題<意見交換>
- ・第 1 回まちづくり懇話会のフィードバック 資料 1
 - ・令和 8 年度南区まちづくり推進事業について 資料 2-1~2-4
- (4) その他
- ・ぶらり南区 デジタルスタンプラリーの紹介 チラシ
- (5) 閉会

5 意見交換議事録

「第 1 回まちづくり懇話会のフィードバック資料 1」及び

「令和 8 年度南区まちづくり推進事業について資料 2-1~資料 2-4」について

< 資料 1 について 事務局から説明 >

(高橋副会長)

南区の広報力強化について、Instagram の運用開始など、ご対応いただき感謝している。投稿内容や頻度については、今後検討しながら進めていってほしい。東区では「東区パワーアップ大作戦」において、

LINE オープンチャットを活用し、参加者との情報共有やコミュニケーションを行っている。その後のイベント案内や協力依頼もそこで行われており、イベントへの参加者がその後も区のまちづくりに関わるきっかけとなっている事例である。

南区でも同様のツールを活用することで、参加者が主体的に関わる仕掛けづくりが可能となる。特に穴掘り大会のような参加者が多いイベントでは、意識の高い参加者を運営側に誘導する手段として有効である。南区の SNS 活用が進んでいることを踏まえ、LINE オープンチャットの導入も検討いただきたい。

< 資料 2-1 について 事務局から説明 >

(安部会長)

「デジタルでつなぐたからもの活用事業」の予算が令和 7 年度から令和 8 年度にかけて大きく減っているが、減額されたノベルティ事業やいきいき連携事業などは継続できるのか、それとも別の事業に振り分けているのか確認したい。

(総務企画課)

「デジタルでつなぐたからもの活用事業」の予算が減ったのは、職員による業務の引き取りや効率化、内容の変更によるもので、今回計上している予算でも事業の実施は可能であると判断した。

令和 8 年度は「未来につなげたい地域のたからもの」をテーマにフォトコンテストを企画している。Instagram も活用しながら、若い世代への情報発信を強化していく方針である。

(中林委員)

「南区こどもの交通安全対策事業」で使われているキャラクター入りの横断歩道の「止まれ」表示は、歩行者向けなのか車向けなのかを確認したい。

自身の交通機動隊での経験から言えば、歩行者優先の意識を育てるには、車側への注意喚起も必要である。歩行者に「止まれ」とだけ伝え、車が優先だと誤解される可能性があるのではないかと懸念している。啓発は子どもだけでなく、車両側にも向けて行うべきである。

(事務局)

交通安全対策事業では、横断歩道に「止まれ」のプリントを施し、歩行者向けの注意喚起を目的としている。車両向けには、地域の要望に応じてカラー舗装や「止まれ」表示などの対応を行っている。

(区長)

令和 8 年度の新規事業(防災関連 3 事業)に約 400 万円以上の予算を充てるため、総予算約 2,000 万円の中で既存事業の予算を削減している。

「デジタルでつなぐたからもの活用事業」は、委託によるデジタルスタンプラリーの実施から、市民が自ら南区の魅力を発見・投稿する形式へ変更を検討しており、費用を抑えつつ、市民参加型へ転換しようと考えている。

また、チラシや印刷物のデザインは生成 AI 等を活用して、できる限り職員で対応し、印刷費のみを外部

委託することでコスト削減を図っている。削減した分の予算は新規事業に振り分け、効率的な運営を進めている。

（松枝委員）

「わがまち未来アイデアコンテスト」の冊子が地域にどう配布・共有されるのかが気になった。全世代に配布されるのか、公民館や集会所などに設置されるのかを確認したい。

昨年発行した川尻小学校の 150 周年記念誌が地域に十分届いていない事例もある。SNS などを活用し、誰が入賞したか、どんな作品があったかを見られるようにしてほしい。

地域の人に参加した成果が見えることで、次回は運営側として関わりたいと思う人が増えるのではないかと考えている。

（事務局）

冊子は予算の都合上、全世帯への配布は難しく、学校や自治会など地域の目に触れやすい場所に配布予定である。令和 8 年度は冊子の形式を変更し、校区ごとに作品をまとめて町内自治会などに配布する方向で検討中である。限られた予算の中で、より多くの人に作品を見てもらえるよう工夫していく。

参加者や地域の人成果を実感できる形にすることで、参加者の意欲向上や運営への関心にもつながると認識している。

< 資料2-2 「わがまち未来アイデアコンテスト」について事務局から説明 >

（高橋副会長）

こどもたちのアイデアを形にするには、企業との連携が大事だと思う。いくつかのアイデアに関しては、企業や地域にも広く周知して、行政以外のところでも事業化する仕組みを作って、実現できそうなアイデアはしっかりと形に残す工夫が必要。

まちづくりセンターの予算だけでは限界があるため、クラウドファンディングや企業協賛といった外部の資金も活用してはどうか。こどもたちが「自分のアイデアが街に反映された」と感じられることが、周りにもいい影響を与えらると思う。将来的には南区全体のプロジェクトとして広げて、住民がもっと関われる取組にしていけたらいいと思う。

応募数も去年より増えている印象があるが、その理由や工夫はどういったことをされたのか。

（事務局）

昨年度の優秀賞である、「e スポーツに関する取組を強化したい」というアイデアは、本庁と協議のうえ、令和 8 年 1 月にイベントを実施予定である。実施にあたっては他局の予算を活用し、未来アイデアコンテストの成果として発表する。

応募数が増えた背景には、学校への積極的な働きかけがあり、各学校の協力が大きかった。

今後も地域・企業・行政が連携し、実現可能なアイデアを形にしていく方向で検討していきたい。

（区長）

自分の企画が実現するのは非常に嬉しいことで、こどもたちにもできるだけその経験をしてほしい。小中学生のアイデアが事業化されれば、将来の起業家育成にもつながる可能性があると思う。

経済関係の部署が行っている起業支援と連携して、こどもたちのアイデアをどう事業化できるか、検討していきたい。

（高橋副会長）

eスポーツのアイデアを出したこどもに、アイデアが実現されたことを伝えているのか。本人や周りに知らせることで、「次もやってみよう」という意欲につながると思う。

自分のアイデアが形になるのは、こどもにとって大きな自信になるはずなので、参加者に対するその後の報告広報の工夫にも期待したい。

（事務局）

アイデアを出した本人には、アイデアが形になったことを伝える予定である。当日の会場でも広報して、アイデアが形になったことを周知する方針。それによって、次の参加意欲や地域への広がりも期待できるので、今後も継続して取り組んでいきたい。

（中迫委員）

小・中学生で行われている探究活動が、高校に入ると途切れがちになっている。探究学習は高校・大学と続いていくべきなので、このようなイベントを通して高校生にも地域活動に参加できる機会を広げてほしい。南区には熊本農業高校もあるので、この事業の参加対象をそこまで広めてみてはどうか。また、南区に住む高校生への情報発信も強化してほしい。高校生が自分の住む地域の魅力を再発見することで、地域への愛着や関心につながると思う。小中高大と、つながった学びや参画の仕組みづくりに期待している。

（事務局）

熊本農業高校には、すでに協賛として関わってもらっている。来年度以降は、参加者として高校生にももっと積極的に関わってもらえるよう検討していく予定。

< 資料2-3 「南区地域包括ケア推進事業」について事務局から説明 >

（中島委員）

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりは大事である。特に働き世代への理解を広げることが課題だと認識している。

南区では多職種が連携した地域包括ケアの取り組みが進んでおり、他区からも高く評価されている。この熱意と連携体制を維持・継続していくことが何よりも重要である。

（福田委員）

ご近所の方で、あの人は「認知症ではないか」という話を耳にすることがあるが、実際の状況は分からないといったことが起きている。行政側で認知症の方を把握し、地域に情報共有することは可能か。

また、自分が仕事で訪問する中で、地域で認知症の方の情報を共有し、地域全体で見守っている事例があった。そうした地域ぐるみの見守り体制といった好事例などを参考に、認知症の方々に対する取組を強化してもらえればありがたい。

（事務局）

認知症の疑いがある方を見かけた場合は、地域のささえりあに連絡してもらえれば、職員が状況確認に伺うことになっている。必要に応じて地域にも情報を共有し、支援体制を整えることも可能である。地域での見守りを広げるためにも、現在提案している事業を通じて啓発を進めていく方針である。

（安部会長）

認知症のご本人やご家族が、どこに相談すればいいかわからず悩むケースは多い。地域の方がそういった困りごとを抱えている際に「ささえりあに相談してみたら」と声をかけられるよう、ささえりあが存在や支援の事例などをもっと周知することが大切である。行政の取組を地域につなげていくためには、情報発信や告知の強化が必要である。

（松枝委員）

自分の住む地域にも認知症の方がいて、「どこに相談すればいいかわからない」という相談を受けることがあった。日頃から地域活動に関わっているため、ささえりあや社会福祉協議会の存在を知っていて、教えることができたが、一般の方々にはまだ馴染みがない印象である。そういった窓口の周知が大事だと感じた。啓発の中で、相談先や対応事例を具体的に伝える工夫が必要。

良い見守り体制があっても、知られていなければ効果が薄い。行政の取組を地域につなげるには、情報発信は欠かせないことだと思う。

< 資料2-4 「南区 de 学ぼうさい事業」について事務局から説明 >

（中島委員）

「南区 de 学ぼうさい」という名前がすごくいいと思う。災害など有事の際も地域で安心できるよう支えていこうという思いが伝わってくる。防災イベントを通して、たくさんの人に意識を高めてもらえることを期待している。

南区役所、飽田会場、幸田会場で行うイベントについて、参加者の年齢層の想定や、学んだことをどう地域に持ち帰ってもらうかのイメージを聞きたい。

（事務局）

イベントの対象は子どもから高齢者まで幅広く考えている。災害は誰にでも起こるから、全世代が体験を通して防災を学ぶことが大事。

座学だけでなく、実際に体験できるということを重視している。学んだことは家庭や地域に持ち帰って、みんなで共有してもらいたい。3会場それぞれの特徴を活かして、地域全体で防災意識を高めていく。

(楠村委員)

子どもが楽しみながら学べる防災企画は印象に残るし、いい取り組みだと思う。

8 月に発生した線状降水帯による災害を経験して、防災への意識が高まった。「今まで大丈夫だったから平気」という考えが通用しないことを実感した。夜の豪雨では避難のタイミングに迷い、自宅にとどまったが、判断の難しさを痛感した。災害が起きると、命が助かった後も、片付けやゴミ処理など体力を使う作業が続く。災害ゴミ処理のコールセンターがつながりにくいなど、災害後の支援にも課題がある。せっかくイベントを行うのであれば、災害後に予想される行動や支援情報も含めて伝えることが大事だと思う。

(西村委員)

防災事業は単年度で終わるのではなく、継続的に実施すべきである。

緑川流域では、国交省などと連携し「遊ぼうさい」の冠で毎年事業を行っている。行政間の連携は難しいが、民間団体が主導すれば実現可能なケースも多い。

南区単独で190万円の予算を負担するのは厳しく、県や国などと連携することで予算を抑えつつ継続的な事業が可能となる。市民目線では行政の縦割りを意識せず、「一緒にやりましょう」と声をかけることで連携が進む可能性がある。予算規模が変わるとしても、防災イベントを継続するならば、地域や民間企業などを巻き込み、行政の枠を超えた協力体制の構築が望まれる。

(事務局)

この防災事業は、熊本地震から 10 年という節目を迎えるにあたり熊本市全体で立ち上げた新規事業の 1 つである。南区では来年度に単年度事業として実施予定である。ただし、事業の内容や効果を検証した上で、次年度以降の継続も視野に入れて検討していく方針である。

国・県・市の連携により、予算面で実施のハードルが下がる可能性もある。仕組み作りなど課題はあるが、他行政との連携や民間との協力も含めて、今後検討・相談していきたい。

(安部会長)

熊本地震から 10 年という節目ではあるが、災害はいつ起こるか分からないため、防災に関する事業は継続的に実施することが重要である。

子どもたちが参加する事業については、来年も参加したくなるような仕掛けづくりが求められる。予算の継続だけでなく、体験型のイベント企画などで参加者の意欲を維持する仕組みの検討も必要である。

地元企業には「お金を出して」ではなく、「ブースを出して一緒に盛り上げましょう」と呼びかけることで、地域ぐるみの手作り防災イベントが可能となる。一度きりの大規模事業ではなく、規模は小さくとも継続的に地域に根付く形での実施が望まれる。

(事務局)

幸田まちセンの防災イベントは、地域拠点を避難所として活用することを地元にもっと周知するという目的で、来年度は新規事業として実施予定だが、今年度も 11 月 2 日に開催することになった。ポッチャや防災かるた、車中泊体験など、親子で楽しめる企画を準備中で、地元企業や幼稚園、農業高校と連携し、民間ブースも出展予定である。

「幸田サロン」内における住民の声を反映し、廃棄物計画課とコラボしてフードロス対策ブースを設けるなどのエコ要素も取り入れ、地域と共につくるイベントとして今後も継続的な開催を目指す。

（友清委員）

今週末に開催される「緑川フェスタ」は熊本地震後から継続している防災イベントである。国交省や地域団体、企業と連携し、重機体験や浸水ドア体験など、遊びを通じて防災を学ぶ企画を実施している。参加費は無料で、環境・エコの要素も取り入れている。

南区も会場に近く、熊本市の取り組みがブース出展にてPRできるので、よかったら利用していただきたい。

（後藤委員）

熊本地震当時、自治会長として高齢者の安否確認を行い、地域の助け合いの大切さを実感した。公民館では車中泊による避難生活が続き、食材を持ち寄って共同生活を送った。

約1か月間、公民館を拠点に支援活動を継続し、自主避難所として機能したが、行政支援の届きにくさも感じた。共助の重要性を強く認識し、今後の防災に活かしたいと考えている。

（安部会長）

そういった地域の共助の経験を共有できる場やイベントがあると望ましい。自主避難所の立ち上げ方や公民館のチェック体制など、事前に話し合う機会が必要である。災害に備え、制度や運営方法を住民と共に考える場づくりが求められる。

（中林委員）

防災事業は非常に有意義であり、東北の震災時に日頃の訓練が命を守った事例を思い出す。防災体験に加え、すでに作ってある防災マップや避難経路、緊急時の連絡先の確認なども有効である。掲示板に避難用のマップを貼ったり、読み込めばそれが見られる QR コードを貼ったりして、紙だけじゃなくてスマホでも防災情報にアクセスできる仕組みがあると良い。家族で避難ルートを話し合うきっかけとなり、日常的に防災を意識することにつながる。

（安部会長）

防災マップは持っていないことが多いので、イベントなどで改めて見る機会をつくるのが重要であるとする。

さらにもう1つリクエストをするならば、防災訓練は、健常者だけでなく認知症の方や障がいのある方も対象とすべきである。障がいがある方や認知症の方はどのように避難をするのか、どんな準備をするべきかなどを確認する必要がある。熊本地震の際の避難所運営では、障がいをお持ちの方や認知症の方がいるご家族が避難に困られていた。そういった方々への支援が行き届かず、反省している部分がある。そういった意味でも、共助の重要性を痛感した。

せっかく大規模にイベントを開催するのであれば、当時そのような経験をした方々にも声をかけて、当時の不安だったことや困りごとについて当事者同士が意見交換し、共有できる場を設けることが重要である。

先ほどの認知症支援の啓発などもこのイベント内にブースを出して啓発を行うなど、他の事業や政策と防災イベントを連携させることで、より効果的な周知が可能となる。防災は多様な立場の人が参加・共有できる「すべてをひっくるめたもの」として企画すべきである。

（高橋副会長）

防災はまちセン単位など、よりミクロな視点で具体的に取り組むべきである。避難所運営や物資の流れなど、具体的・実践的な内容を小規模でも実施してほしい。

まちづくり懇話会の予算では難しくても、本庁の予算を活用してパッケージ化できないか検討が必要である。熊本地震から 10 年の節目に合わせ、防災月間のようなものになると思うが、継続的な取り組みが望まれる。南区独自のパッケージ化したチラシの作成など PR 方法を工夫し、それぞれの地域の住民にも参加を促す仕組みづくりが求められる。

（事務局）

各校区では毎年、実動訓練を実施しており、避難所ごとに炊き出しや体験などを行っている。

防災イベントの実施時期は未定だが、熊本地震の節目に近い時期を検討している。今回の行政主導の事業は三会場（区役所・幸田・飽田）での開催を予定している。南区では防災士の活動が活発であり、地域の防災士と連携した訓練を進めていきたい。

来年度は南区全体でパッケージ化した防災イベントを展開する予定である。広報物には各イベント日程をまとめて掲載し、周知を強化する方針である。

来年度限りで終わらせず、継続的な防災意識の醸成を目指して取り組んでいく。

< 「ぶらり南区 デジタルスタンプラリー」について総務企画課から説明 >

（中迫委員）

チラシの二次元コードで南区ホームページを見たが、このイベントがトップページに出ていない。多くの人に周知するには、ホームページでアクセスしやすいように設定したほうがよい。

（事務局）

ご指摘いただきありがとうございます。早速ホームページのトピックスに表示するよう設定します。

< 議事終了 >